



片柳中学校だより

# 片柳

第10号 令和7年1月7日発行  
さいたま市立片柳中学校  
さいたま市見沼区大字御蔵551  
TEL048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

## 教師となって43年

校長 加藤 明良

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

穏やかな年明けとなりました。みなさんはどんな年末年始を過ごしたでしょうか。例年より1日早い3学期が始まりました。まだ冬休み気分の人もあるかもしれませんが、3学期は進級、進学に向けて大切なまとめと準備の学期です。今日から気持ちを切り替え、学校生活に臨んでください。

さて、新年にあたり私の教師生活を振り返って思うところをいくつか書かせてもらいます。若干22歳の大学卒業後、アルバイト以外に社会経験のないまま教師として片柳中へ赴任し、すでに43年が経過しました。世の中も日本が世界一ともてはやされたバブル景気とその崩壊、長引く不況、阪神淡路と東日本の大震災、リーマンショック、グローバル化、IT化、コロナ禍と多くの変化がありました。教育界も校内暴力をはじめ生徒の非行問題行動、受験競争、ゆとり教育と学力低下、いじめや不登校生徒の増加など、この40年間に多くの課題が出されてきました。これらの背景の一つに価値観が多様化、複雑化し、ひとつの尺度では測れない、ひとつのモデルでは通用しない社会になったためとも言われています。しかし、世の中がいかに変化しようとも変わらないもの、変えてはいけないものがあると思います。その一つが、子どもは国の宝であること、その成長を促し支えることは、社会の責務であるということです。そして、学校はその中心的存在であり、学校で行われる様々な営みのすべてが子どもにとってよりよい成長を促すもの、そして子どもに対して常に最善を尽くすべき場であることだと思います。これは世の中がどんなに変化しても学校教育というシステムが続く限り変わらないものだと考えます。

そんな学校を舞台に教師という、まさに最前線に立ってきたことは、私にとっての大きな誇りであり、喜びでもあります。一方で、振り返ってみて、そんな重責に見合うだけの仕事をしてきたのか、若いころの自分を思い出し、その当時の生徒や保護者に申し訳ない気持ちになります。そして現在も含めて、もっとこうすべきだ、これがなぜできないのか、自問自答する日々でもあります。同時に、複雑化し激しく変化する社会にあって、学校（教師）だけの力では限界であり、関係機関をはじめ、保護者や地域の力など社会総がかりで子どもを支えていくシステムが必要だと感じています。

今、教師の人气が下がっています。勤務時間内に仕事が終わらない。様々な保護者からの要望にすべて応えられない。責任が重すぎる。でも、教師の一言によって子どもが成長していく姿、子どもとの関係性の中で築いていく信頼感、教えることの楽しさなど教師の魅力は数多くあります。中学生のみなさんも、将来の仕事として一人でも多くの人が教師をめざしてくれることを願っています。40年かけて取り組むだけの価値ある仕事だと思います。

今年も国の宝である子どもたちのために、生徒も含め保護者、地域の方々、みなさんでできることに取り組んでいきましょう。